

企業名： 東洋紡

レポート名： TOYOBO REPORT 2021

### 1. この会社が目指す姿が理解できるか

私は TOYOBO REPORT 2021 を読んで、東洋紡が繊維事業をもとに培ってきた、「重合」「変性」「成形・加工」「バイオ」などの高度な技術を活かし世の中がより良くなるような製品を提供することで、その存在が社会をより良いものになるような企業を目指していると認識した。東洋紡は 140 年前に創業して以来、繊維製品、プラスチック製品、フィルムや自動車、医療などの分野での製品などのその時代のニーズに合わせた製品を数々と生み出してきており、それらは人々の生活を豊かものにしてきた。そんな製品をこれから先の時代も生み出していき、社会のニーズを満たし続けることを目指しているのではないか。それに加え、東洋紡は近年、世の動きに合わせ、SDGs やカーボンニュートラルなどに取り組み始めており、サステナブルな企業を目指していることもわかる。そのような取り組みは会社の利益のみならず、地球全体、また社会全体の利益を考慮したものであり、それは社会にとって価値のある企業を目指していると言える。

### 2. この会社の競争優位性が理解できるか

東洋紡は時代の変化とともにその中心的な事業を繊維産業からフィルムや膜などのその他の分野へと移し、柔軟に対応してきた。今現在取り組んでいる商品には、例えば、マスクなどに使われる世界トップクラスの機能性不織布や新型コロナウイルス検出のキットなどがある。それらはこのコロナ禍の需要の変化に対応した製品であり、また東洋紡が長い年月をかけて培ってきた他社が容易に真似することのできない独自の高度な技術を使用したものであって、東洋紡の持つ価値ある技術を世の中の需要に合わせて提供できている。またフィルム事業の業績もコロナ禍の影響による巣ごもり需要の影響もあり、好調である。そのため東洋紡は競争優位にある。

### 3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

東洋紡の製品には上に挙げた例以外には、中東の大型の海水を炭水化する装置に使われている膜や、優れたガスバリア性能で食品の長期保存を可能にするフィルム、人工透析に使われる医療機器製品などがあり、それらの商品はこれからの将来、地球温暖化の問題や食品ロス問題、高齢化問題などの影響を受けて、ますます需要が増加していくことが考えられる。そのためコロナ禍が終わった後も、さまざまな分野において、東洋紡は競争優位であると言える。

#### 4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

「一人一人が成長を感じ、誇りとやりがいを持って働くことができる」ことを人材マネジメントの柱としているが、具体的な取り組みとして、次世代の経営人材を育成するため、選抜した人材を対象に海外を含めたビジネススクールなどのへの派遣も行っており、自身の成長も目指すことのできる環境になっていると感じた。また共通研修や職群別研修などの教育・研修体系も準備されている。ワークライフバランスや健康の維持・増進への配慮も説明されており、自身の価値向上を達成できると思った。

#### 5. 報告書にはどのような改善余地があるか

他の企業の報告書をこれまで見てきたわけではないため自分の意見は参考になるものではないが、私の読んだ限りではどの項目に対しても十分な説明が記載されていて分かりやすいものであったと思ったため、改善の余地を指摘することはできない。